

平成28年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	慶應義塾大学	整理番号	A03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) せいけ あつし 氏名・職名 清家 篤 (慶應義塾大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はせやま あきら 氏名・職名 長谷山 彰 (慶應義塾常任理事)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) かんなり ふみひこ 氏名・職名 神成 文彦 (慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻教授)		
4. 類型	A <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス	
	英語名称	Science for Development of Super Mature Society	
	副題		
6. 授与する博士学 位分野・名称	博士(哲学)、博士(美学)、博士(史学)、博士(文学)、博士(図書館・情報学)、博士(経済学)、博士(法学)、博士(社会学)、博士(心理学)、博士(教育学)、博士(商学)、博士(医学)、博士(理学)、博士(工学)、博士(経営学)、博士(政策・メディア)、博士(看護学)、博士(医療マネジメント学)、博士(スポーツマネジメント学)、博士(公衆衛生学)、博士(薬科学)、博士(薬学)、博士(医療薬学)、博士(システムエンジニアリング学)、博士(システムデザイン・マネジメント学)、博士(メディアデザイン学)		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	情報学全分科、生活科学、人間医工学、健康・スポーツ科学、文学、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、数学、物理学、複合化学、材料化学、機械工学、電気電子工学、建築学、材料工学、総合工学、腫瘍学、基礎医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、看護学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科哲学・倫理学専攻、文学研究科美学美術史学専攻、文学研究科史学専攻、文学研究科国文学専攻、文学研究科中国文学専攻、文学研究科英米文学専攻、文学研究科独文学専攻、文学研究科仏文学専攻、文学研究科図書館・情報学専攻、経済学研究科経済学専攻、法学研究科民事法学専攻、法学研究科公法学専攻、法学研究科政治学専攻、商学研究科商学専攻、医学研究科医学研究系専攻、理工学研究科基礎理工学専攻、理工学研究科総合デザイン工学専攻、理工学研究科開放環境科学専攻、政策・メディア研究科政策・メディア専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名	なし		
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名	なし		
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	なし		

14. プログラム担当者の構成 計 62 名					
外国人の人数		3 人	[4.0%]	女性の人数	
				4 人	[6.5%]
プログラム実施大学に属する者の割合 [100.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			62 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			59 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				0 人	
				0 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成28年度における役割)
(プログラム責任者)					
長谷山 彰	ハセヤマ アキラ		文学研究科・史学専攻・教授 (慶應義塾常任理事)	史学・法学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター)					
神成 文彦	カンナリ フミヒコ		理工学研究科・総合デザイン工学専攻・教授	光エレクトロニクス・工博	プログラムコーディネーター 大学院生プログラム指導
青山 藤詞郎	アヤマ トウジロウ		理工学研究科・教授	機械工学・工博	分野間連携
天野 英晴	アマノ ヒデアキ		理工学研究科・教授	計算機工学・工博	国際連携
伊藤 公平	イトウ コウヘイ		理工学研究科・教授	材料化学・Ph. D	国際連携
今井 宏明	イマイ ヒロアキ		理工学研究科・教授	材料化学・工博	進学する学部生指導
大西 公平	オオニシ コウヘイ		理工学研究科・教授	電気電子工学・工博	分野間連携
黒田 忠広	クロダ タダヒロ		理工学研究科・教授	LSI工学・工博	産業界連携
小池 康博	コイケ ヤスヒロ		理工学研究科・教授	光材料工学・工博	分野間連携
高山 緑	タカヤマ ミドリ		理工学部・教授	ジェロントロジー、生涯発達心理学、博士(教育学)	学生カウンセリング
戸嶋 一敦	トシマ カズノブ		理工学研究科・教授	生命化学・工博	産業界連携
山中 直明	ヤマナカ ナオアキ		理工学研究科・教授	通信工学・工博	産業界連携
伊藤 裕	イトウ ヒロユキ		医学研究科・教授	内分泌代謝・医博	産業界連携
北川 雄光	キタガワ ユウコウ		医学研究科・教授	一般消化器外科・医博	医学系幹事
武林 亨	タケノハヤシ トオル		医学研究科・教授	公衆衛生学・博士(医学)	大学院生プログラム指導
坪田 一男	ツボタ カズオ		医学研究科・教授	眼科学・医博	産業界連携
戸山 芳昭	トヤマ ヨシアキ		医学研究科・教授	整形外科学・医博	分野間連携
三村 将	ミムラ マサル		医学研究科・教授	精神神経科学・博士(医学)	進学する学部生指導
安井 正人	ヤスイ マサト		医学研究科・教授	薬理学・博士(医学)	国際連携
矢作 直久	ヤハギ ナオヒサ		医学研究科・教授	低侵襲療法・博士(医学)	産業界連携
里宇 明元	リウメイゲン		医学研究科・教授	リハビリテーション・博士(医学)	産業界連携
大谷 俊郎	オオタニ シロウ		健康マネジメント研究科・教授	スポーツ医学・博士(医学)	分野間連携
上山 信一	ウエヤマ シンイチ		政策・メディア研究科・教授	行政改革・公共経営学修士	産業界連携
國領 二郎	クニノリ ジロウ		政策・メディア研究科・教授	経営情報システム、経営学博士	政策・社会科学系幹事
徳田 英幸	トクダ ヒデアキ		政策・メディア研究科・教授	Computer Science・Ph. D	産業界連携
村井 純	ムライ ジュン		政策・メディア研究科・教授	コンピュータコミュニケーション・工博	進学する学部生指導
渡辺 光博	ワタナベ ミツヒロ		政策・メディア研究科・教授	抗老化医学・Ph. D	分野間連携

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成28年度における役割)
秋山 美紀	アキヤマ ミキ		政策・メディア研究科・准教授	ヘルソコミュニケーション・博士(政策・メディア)	大学院生プログラム指導
内藤 泰宏	ナイトウ ヤヒロ		政策・メディア研究科・准教授	システム生物学・博士(医学)	大学院生プログラム指導
石橋 孝次	イシハシ コウジ		経済学研究科・教授	産業組織論・Ph. D	産業界連携
河井 啓希	カワイ ヒロキ		経済学研究科・教授	計量経済学・商学修士	国際連携
駒村 康平	コマムラ コウヘイ		経済学研究科・教授	社会政策・博士(経済学)	大学院生プログラム指導
清家 篤	セイケ アツシ		商学研究科・教授	労働経済学・博士(商学)	分野間連携
早見 均	ハヤミ ヒトシ		商学研究科・教授	労働経済学・博士(商学)	進学する学部生指導
八代 充史	ヤシロ アツシ		商学研究科・教授	人的資源管理論・博士(商学)	産業界連携
倉田 敬子	クラタ ケイコ		文学研究科・教授	図書館・情報学・文学修士	大学院生プログラム指導
遠山 公一	トウヤマ コウイチ		文学研究科・教授	西洋美術史学・文学修士	分野間連携
玉井 清	タマイ キヨシ		法学研究科・教授	近代日本政治史・法学博士	分野間連携
太田 達也	オオタ タツヤ		法学研究科・教授	刑事司法・被害者学・アジア法・学士(法学)	大学院生プログラム指導・国際連携
田邊 孝純	タナベ タカシ		理工学研究科・准教授	光エレクトロニクス・博士(工学)	大学院生プログラム指導
桂 誠一郎	カヅラ セイイチロウ		理工学研究科・准教授	システムデザイン工学・博士(工学)	大学院生プログラム指導
羽鳥 賢一	ハトリ ケンイチ		理工学研究科・特任教授	知的財産管理・工学修士	大学院生プログラム指導
ミヤケ ツトム	ミヤケ ツトム		理工学研究科・特任教授	発生・進化・ゲノム・Ph. D	大学院生プログラム指導
山口 正泰	ヤマグチ マサユス		理工学研究科・特任教授	通信工学・博士(工学)	大学院生プログラム指導
齋藤 潤	サイトウ ジュン		商学研究科・特任教授	マクロ経済学・経済学修士	大学院生プログラム指導
清水 創太	シミズ ソウタ		理工学研究科・特任准教授	感覚情報処理工学・知能機械学・博士(工学)	大学院生プログラム指導
石岡 良子	イソオカ ヨシコ		理工学研究科・特任助教	老年学・博士(人間科学)	大学院生プログラム指導
Ventzek, Peter	ベンゼック・ピーター		理工学研究科・特任教授(非常勤)	Tokyo Electron America, Inc. Principal Research Scientist - Ph. D	大学院生プログラム指導
Boontharm, Davisi	ブーンタム・ダヴィシ		理工学研究科・特任准教授(非常勤)	Architecture and Urban Design, Ph. D	大学院生プログラム指導
石川 繁樹	イシカワ シガキ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・日本アイ・ビー・エム(株) 研究開発 ビジネス開発・博士(工学)	大学院生プログラム指導
上田 理	ウエダ リ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・ソニー(株) エンジニアリング部門	大学院生プログラム指導
島崎 豊	シマザキ ユカ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・丸紅(株) 執行役員 秘書部長兼広報部長・学士(経済学)	大学院生プログラム指導
高橋 雄一郎	タカハシ ユウイチロウ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・弁護士・弁理士・学士(工学)	大学院生プログラム指導・産業界連携
山崎 徹	ヤマザキ トオル		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・富士ゼロックス(株) 研究技術開発本部研究主幹・学士(理学)	大学院生プログラム指導
村瀬 賢芳	ムラセ マサヨシ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・新日鐵住金(株) 参与 内部統制・監査部長・学士(法学)	大学院生プログラム指導
多賀谷 晴敏	タガヤ ハルヒ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・元(株) 東京海上研究所 業務取締役 研究部長・修士(経営学)	大学院生プログラム指導
沢 真司	サワ マサシ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・(株) 日立製作所 総合教育センター 自立総合技術研究所 所長・学士(工学)	大学院生プログラム指導
石渡 伸幸	イシワタ ノブユキ		理工学研究科・嘱託(非常勤)	メンター・川崎市 市民文化局コミュニティ推進部長・学士(経済学)	大学院生プログラム指導
日森 敏泰	ヒコリ トシヤス		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・毎日放送電通(株) 埼玉事業部 部長 代表社員・(株) NIT 東日本一関支店 取締役 群馬支店長・修士(工学)	大学院生プログラム指導
太田 正隆	オオタ マサタカ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・(株) JFE総合研究所 コンクリート・エンジニアリング事業部主幹研究員・修士(政治学)	大学院生プログラム指導
小杉 俊哉	コサギ トシヤ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・(同) THS 経緯組織研究所 代表社員・修士(経営学)	大学院生プログラム指導
赤嶺 政巳	アカミネ マサミ		理工学研究科・特任教授(非常勤)	メンター・東芝リサーチコンサルティング(株) シニアフェロー・博士(工学)	大学院生プログラム指導

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

20世紀は高度産業化社会発展の時代であったが、21世紀に入り一転して、急速な少子高齢化への進展、低成長経済の定着等、いわば超成熟社会に日本は先進国の中で最初に突入して行く。このように出口を求めるのが困難な時代に、社会が求める人材とは、こうした人類共通の課題となる超成熟社会の問題に対し、持続的な発展のシナリオを描くとともに、それを実行できる骨太の専門性(スペシャリスト要素)と周辺総合力(ジェネラリスト要素)をとともに備えた次代のリーダーであろう。本プログラムは、こうした次代のリーダーの資質を養成することを目的として、慶應義塾大学大学院の文系・理工系・医療系・政策系をカバーする13研究科の中からチャレンジ精神溢れる学生を選抜し、骨太の主専攻を基盤に、本格的な文理融合と産業界・行政体との密な連携による革新的な教育システムを備え、5年一貫の教育課程により、次代の高度博士人材の育成・輩出を目指すものである。

多様な分野から選抜された学生は、RA(リサーチアシスタント;非常勤研究員)として雇用され、経済的な支援を受ける一方、自分の主専攻の履修に加え、本プログラムが整備した5年間の教育課程を履修する。その教育システムは3つの大きな柱を備える。第1は、ダブルメジャー取得による本格的な文理融合の実現であり、最初の3年間で、自分が所属する13研究科の何れかの修士号取得に続き、本プログラムの趣旨に賛同した7研究科(理工、文、経済、法、商、医、政策メディア)の中から、主専攻の枠を大きく超えた研究テーマに係る研究科の修士号を取得する。この実現のため、本学は短期的に必要単位取得を可能とするジョイントディグリー制度を制定した。

第2は、産業界・行政体との密な連携(産学官連携)による革新的な教育システムの構築である。日本を代表する企業や行政体から推薦された現役部長クラスの方々10名がメンター(非常勤特任教授)として来学し、毎週土曜日に5年間継続してメンターゼミを開講する(グループプロジェクト演習;「GPE演習」という)。その中で多様な分野のRA達は、人類共通の課題である「超成熟社会発展のサイエンス」を共通プラットフォームとして、社会の視点で様々な課題を自ら設定し取組み、海外・国内のフィールドワークを活用しながら、問題発見力と実践的な解決力・企画力を養う。その成果は春秋タームペーパーを経て、政策提言や企業長期戦略提言に纏められる。

第3は、超成熟社会の課題を紐解くスキルを習得可能とするために本プログラム用に設置した22の演習等共通科目の履修、海外インターンシップ・短期留学、夏・冬キャンプ、シンポジウムの企画等による、総合力と世界人の視野の養成を可能とした点にある。

プログラムの特色

本プログラムの最大の特色は、ダブルメジャー取得による本格的な文理融合の実現(上記第1の柱)と産業界・行政体との密な連携(産学官連携)による革新的な教育システムの構築(上記第2の柱)の相乗効果において、これまでにない学生が育成されるという点にある。主専攻と副専攻の修士号を3年間で取得すること自体が高いハードルであるが、それに加え、第3の学生訓練の場として、産業界・行政体との連携の下、毎週土曜日に5年間継続してメンター指導によりグループプロジェクト演習(GPE演習)を行なうという教育環境を整備した。この主専攻、副専攻およびGPE演習を三位一体として構成し、その相互の研究主題を所定の距離感に置くことを課す中で、例えば理工学研究科の学生が、経済学修士を取得するように、主専攻の枠を大きく超えた副専攻履修を実現するとともに、アカデミアの視点に加えて社会・産業界の視点で主専攻の研究を見直すことができ、総合的俯瞰力や独創的企画力の形成に大きな貢献が期待される。昨年の12月のシンポジウムでは、20社・1機関・1省庁の50人以上人事採用担当者を招いてシンポジウムを開催し、本プログラムを修了した学生の企業における活用策を議論した。シンポジウム後に1期生と人事採用担当者間の意見交換の場を設けた。1期生はこれらで、高い評価を得た。

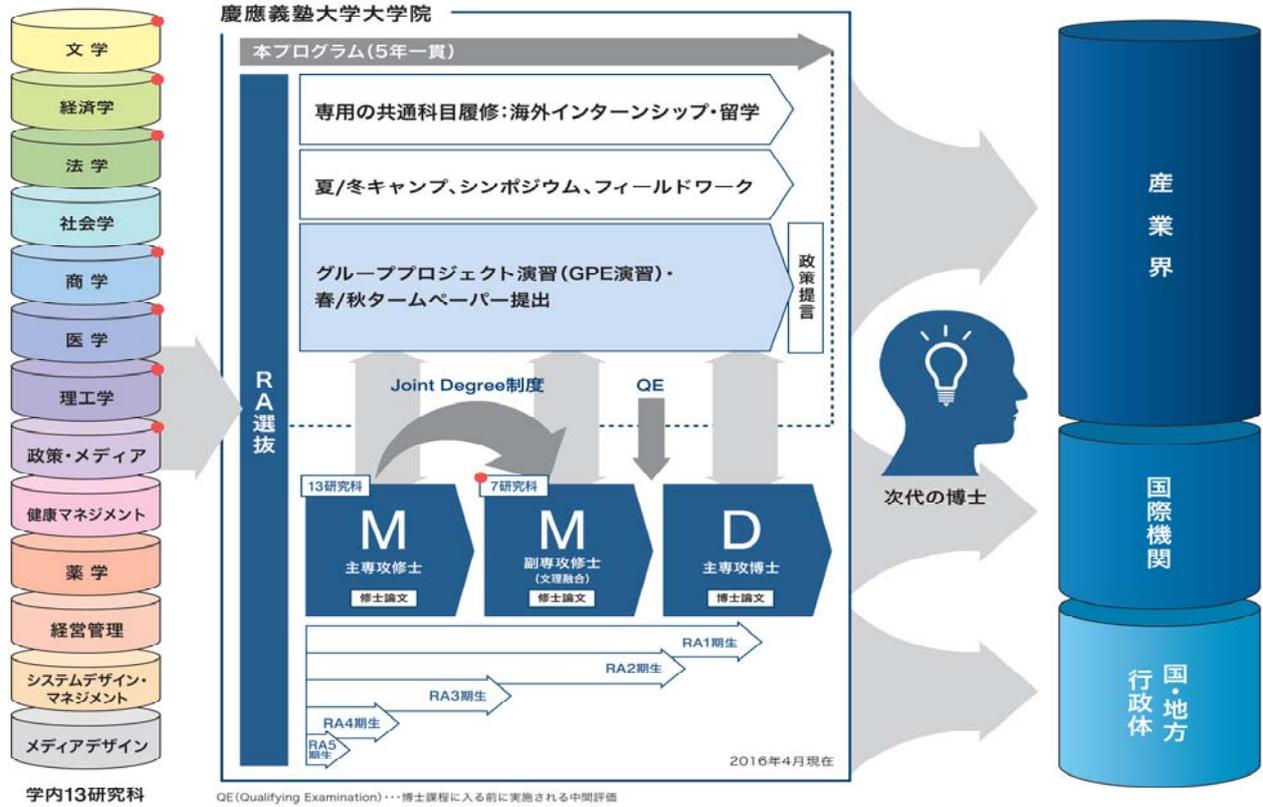
プログラムの優位性

本プログラムの優位性は、本学の総合大学としての強み(本格的な文理融合実現のための幅広い選択肢の提供に貢献)、開学以来の長い歴史の中で築かれた海外265の協定校との連携による海外展開(海外協定校とのダブルディグリー制度の活用による本プログラム参加留学生の拡大や短期留学先の確保に貢献)、および本学のOB/OG会である三田会の人的ネットワーク活用による事業展開(優秀な現役メンターの確保や国内外インターンシップ先の確保に貢献)において、特に顕著に発現されている。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

13研究科から選抜された学生が切磋琢磨するMMD教育システム



三位一体設計による人間力形成

- 総合的俯瞰力
- 独創的企画力
- 世界人の視野

